

白杵市 施策評価シート

(令和6年度)

評価 担当課	課名
環境課	

コード	VII-20-47	施策名	CO2削減に向けたまちづくりの推進
まちづくりの 目標	豊かな自然環境で市民が潤い、活力あふれるまち(生活環境)	施策の方針	環境にやさしい資源が活かされ循環するまちをつくる
5年後の めざす姿	地球温暖化対策への意識を高め、二酸化炭素排出量の抑制を図ります。 市民や地域の団体、事業者などが、日常生活における冷暖房の適正な温度管理、移動時の公共交通機関の利用などの促進をめざします。		
施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工コ製品や低公害車等の環境にやさしい製品購入を推進します。</li> <li>・Co2削減のため、再生可能エネルギーの有効活用と自然環境の保全の両立を推進する必要がある。</li> </ul>		

<施策の進捗を測るものさし(指標) ~ 第2次白杵市総合計画 後期基本計画>

新規 指標	指標名	指標の説明	指標数値の推移							
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
	環境出前講座の開催回数【累計】	大分県や九州電力等による講師派遣回数並びに環境課職員による出前講座回数	目標	回	/	8	10	13	15	18
			実績		5	5	8	10	13	5
			達成率	%	/	62.5%	80.0%	76.9%	86.7%	27.8%
	白杵市役所における温室効果ガス排出量	白杵市地球温暖化対策実行計画(第3期計画)	目標	t(トン)	/	5,799	5,752	5,705	5,658	5,610
			実績		4,293	3,929	4,854	4,257	5,030	5,794
			達成率	%	/	147.6%	118.5%	134.0%	112.5%	96.8%
			目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					
			目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					
			目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					
			目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					
			目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					
指標の 進捗状況	やや遅延	指標の分析	目標		/					
			実績							
			達成率	%	/					

・R6年度の講師派遣回数並びに環境課職員による出前講座回数は前年度より減っていますが、学校からの開催要請や見学希望の数に影響されます。また、地球温暖化を抑制する市全体の「脱炭素」に関する取り組みへ業務ウエイトが傾向したことも一因になっていると考えられます。  
 ・白杵市役所における温室効果ガス排出量については、目標を達成していますが、令和2年度と比較して増加しています。増加した理由は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、市民会館等の公共施設の利用が開始され、電気等の使用料が増加したことによるものです。

<市民意識調査結果 R6実施結果>

領域名	必要度	満足度	満足度
検討領域	2.49	1.98	2.50
向上領域: 今後も現状のサービス水準の維持向上が望まれる領域 強化領域: 満足度を高めるよう事業の強化が望まれる領域 見直し領域: サービス水準が適正となっているか、見直しが必要な領域 検討領域: 施策や事業のあり方や内容の検討が必要な領域		浸透度	
		79.28%	
過去の 調査結果 (領域)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討領域	検討領域	見直し領域

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課	事業費(単位:千円) ※人件費含まない		評価シート作成の有無	課長評価			重点事項
			R5年度実績	R6年度実績		進捗状況	今後の方針	施策への貢献度	
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計			-	-	※事務事業評価シートは対象となる要件を満たした事業のみ作成しています。				

施策の評価 (今後の施策の方向性)

評価の選択肢 ○ 向上 … 現状の通り維持向上する  
○ 見直し … 現状を見直し適正化を図る

○ 強化… 現状より強化を図る  
○ 検討… 現状の抜本的な検討を行う

<担当課評価>…評価者 担当所属長

担当課評価	評価の理由と次年度以降の取組
見直し	市民や事業所の、「きれいな生活環境を維持する重要性についての意識づけ」が十分ではありません。再生可能エネルギーや地球温暖化対策について学ぶ機会をつくるとともに、本市が推進している「有機の里づくり」など、環境に優しい取組みとの相乗効果をもたらす仕組みづくりも視野に検討していく必要があります。市民一人一人、事業所1つ1つが、普段からできる二酸化炭素排出抑制のい主体的に取り組んでいけるような機運の醸成も必要と思われます。